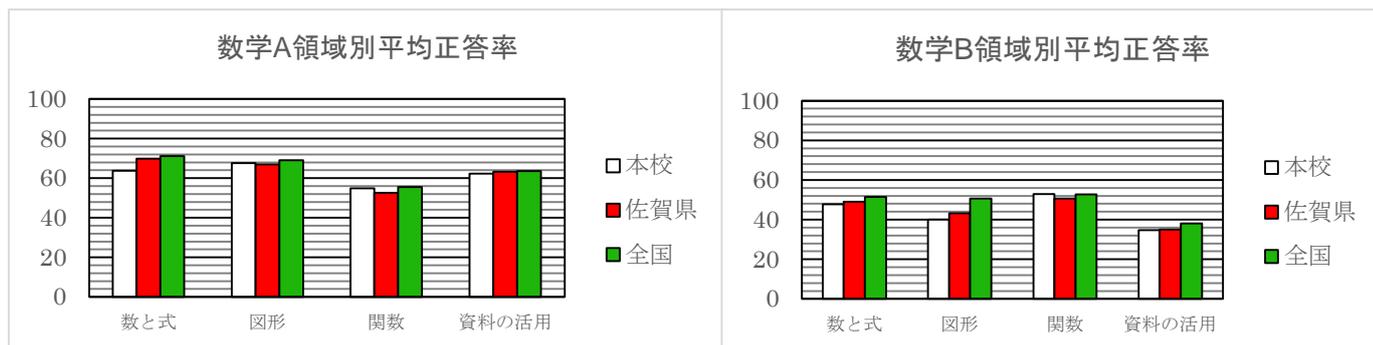


2 数学

(1) 結果

全国正答率との比較



数学A、数学Bともに、「数と式」「図形」「資料の活用」の領域で全国平均に達していないが、「関数」領域で全国平均を上回った。特に「図形」領域において正答率が低くなっている。基礎的な技能の定着がまだまだ不十分であり、今後の課題である。日頃の授業において、復習を多く取り入れ、既習内容との関連を大切にしながら、内容の確実な習得を目指していくことが必要である。

(2) 成果と課題

数と式

基本的な計算技能を問う問題について、まだまだ全国平均にはとどいて届いていない。特に、文章を読み取り、不等式に表すことや、等式を変形して、文字aについて解く問題において正答率が低く、無答率も高い結果が出た。基本的な計算力を身につけ、加減乗除の概念を身につけさせることが必要である。また、立式をする際には関係性を理解するために、図や表を用いるなど、指導の工夫が必要である。

図形

筋道を立てて考えたり、説明したりする問題については全国平均を越えている。一方、回転体や立体の見取り図について考えたり、回転移動した図形を選んだりするなど、図形を想像しながら解く問題では正答率が低く、課題が残る。実物をいろいろな方向から見せたり、自分で図を書かせたりするなどして図形について多方面からとらえる力をつけさせることが必要である。

関数

「関数」領域において反比例や一次関数の特徴を捉えることや、グラフと表を関連付けて考えることについて全国平均を上回っている。一方、それらを活用した日常的な課題で、与えられたグラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することに課題が残る。式、表、グラフなどと関連付けて学習したことを、具体的な事象に適用させながら指導していくことなどが必要である。

資料の活用

資料から必要な情報を適切に読み取る力は全国平均に達している。一方、確率の意味について正しく理解し、与えられた情報を分類整理して不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることについて課題が残る。具体的な事象を用いて観察、実験などを通じた学習を充実させ、判断の理由を説明するなどの数学的活動を多く取り入れる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 基礎的な知識・技能の定着がまだまだ不十分な生徒がいるので、見賢タイム（朝自習）の時間を活用し、既習事項を繰り返し練習する時間を確保します。
- 個に応じたきめ細かな指導ができるよう、チームティーチングを導入しています。
- 自学ノートを活用し、家庭学習の仕方の指導に力を入れ、知識・技能の定着を図っていきます。

【ご家庭では】

よりよい学習習慣を身に付けさせることが大切です。例えば、「一日1ページする」、「一日5問する」というような目標を立て、家庭学習を毎日継続していくことが考えられます。これからも、お子さんが数学にふれる機会をつくり、頑張っている過程をしっかり認め、ほめていただくようお願いします。